

国際防疫網へ参加必須

台北駐日経済文化代表処代表

謝長廷氏 寄稿



駐日大使に相当する台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表が、18日から開かれる世界保健機関（WHO）の年次総会への参加の意義について、

日本経済新聞に寄稿した。新型コロナウイルスに對し世界各国が効果的な対策を模索している。国際感染症の防疫は一国の

ナによる死者数は6人に抑え成果を上げている。国際防疫で最も重要な

台湾は昨年末、中国武漢でSARSのような肺炎の症例がいくつか発症したという情報を把握し、この時点で「人から人への感染」の可能性を前提に考え、検疫強化を

開始した。自由、民主主義がとれる独裁国家より効率的な防疫は強制手段の致命的な「漏れ穴」に

が、完全な国際防疫網を構築するには台湾のWHO参加が不可欠である。台湾は2003年の重症急性呼吸器症候群（SARS）で84人の死者が出た教訓から国際感染症の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の生産協力を進めているが、完全な国際防疫網を構築するには台湾のWHO参加が不可欠である。

台湾は2003年の重症急性呼吸器症候群（SARS）で84人の死者が出た教訓から国際感染症の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ

の防疫を極めて重視し、4月末の時点で新型コロナ